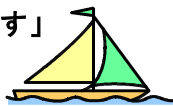




小値賀物語



令和2年12月3日発行

小値賀町立小値賀中学校

校長 池田英二

① 求めて学ぶ生徒 ② 心を高める生徒 ③ たくましい生徒

今回の小値賀物語第13話では、先日実施した2年生の郷土料理教室、がん教育講演会、小値賀っ子の心を見つめる教育週間の校長講話と英語科合同授業の模様を紹介いたします。いよいよ師走になり、肌寒い日々が続きますが、どうぞお身体を大切になさってください。

2年生郷土料理教室（11月19日）

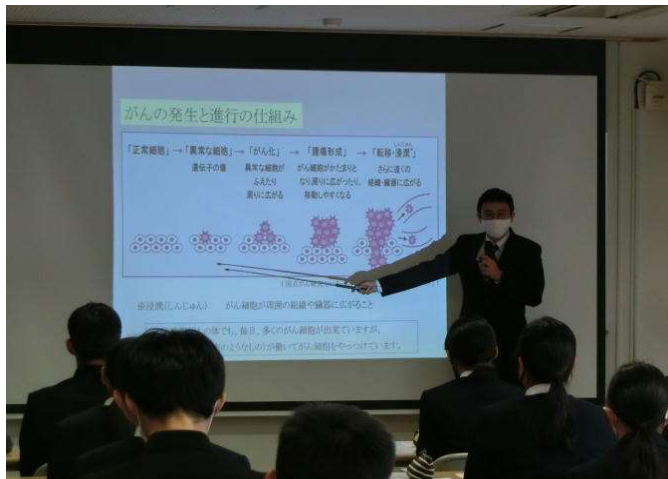
先日、母ちゃんの会（「ふるさとの味・かーちゃんの味」伝えよ一会）の皆様と中村光洋さんのご指導のもと、小値賀町役場産業振興課の皆さんのご支援を受けて、郷土料理教室を実施することができました。コロナ禍の中での実施ということで、私たち教職員は、調理室に入ることができませんでしたが、2年生の生徒が作った豪華な昼食をいただいて大満足でした。子どもたちは、地域の方々のご指導のおかげで、手際よく魚をさばくことができましたようです。私も料理を食べながら小値賀の皆さんの温かさを感じました。お世話になりました。ありがとうございました。



がん教育講演会（11月27日）

27日には、長崎県上五島保健所所長の安藤隆雄先生が、保健部主事の石内智貴さんと来校され、がん教育についての講演をしていただきました。この講演会の目的は、「がんに関する正しい知識を学び、健康や命の大切さを感じて自分や自分以外の人も大切に作る心」を育てる。ことです。

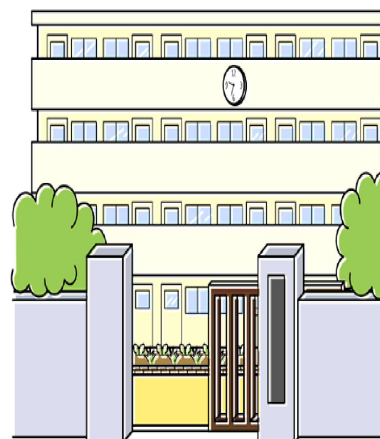
安藤先生は、パワーポイントを使って、全生徒が理解できるように、わかりやすく丁寧に「がんを正しく知ること」と「がんを予防する方法」について講演していただきました。がんになる原因は、遺伝要因と環境要因があることやがんを予防するために効果的な生活習慣を見直す方法についても学びました。ご家庭でもお子さんと「がん教育講演会」の内容について話をしていただければと思っています。



校長講話（11月30日）「小値賀っ子の心を見つめる教育週間」

教育週間の始まりに、校長講話を行いました。この教育週間は、過去、長崎市で中学生が幼児を突き落とし死亡させた事件、佐世保市で小学生が級友を殺傷した事件や高校生が同級生を殺傷した事件、諫早市で小学生女子児童が誘拐され殺害された事件を受けて設定されました。このような悲惨な少年事件を二度と起こしてはならない、過去の出来事として決して風化させてはならないという強い思いのもと、「長崎っ子の心を見つめる」教育週間がつけられました。

この講話で、私が子どもたちに伝えたかったことは「自分の周りにいる人を大切にしてほしい。」ということでした。小さな時から「人と話すこと」がとても苦手だった私の経験や、そんな私が学校の先生になって困ったこと、家庭訪問で保護者の方と話すのも苦手だったのですが、その分しっかりと相手の話を聴いて喜ばれたこと、このような経験から「話し上手」を目指すよりも「聴き上手」になり相手意識を大切にするようになったことを話しました。相手意識というのは、話をする相手が誰で、どのような人なのかということ意識することです。私は、相手を大切に思う心を磨き、自分が今まで経験したことのない考え方や行動の仕方をする人たちと出会った時に、心を閉ざすのではなく、心を通わせることができることができたらいいなあと思っています。自分が周りの人一人一人を大切にしたら、自分も周りの人から大切にされます。自分が周りの人を大切にしたら、相手を憎んだり、恨まれたりする争いや殺人事件が起こることもなくなるのではないかと思います。自分の周りの人を大切にできる小値賀中の生徒になってほしいと思いこのような講話をしました。



小6・中3英語科合同授業（12月1日）

小中高一貫教育の一環として、英語科の合同授業を行いました。合同授業は、小値賀小学校6年生と中学校1年生が、国語と英語で実施しています。この合同授業を行う目的は、中一ギャップの解消、小中のスムーズな接続と学力向上です。

今回は、本校英語科の本村美帆先生が主担当になり授業を行いました。まずはアイスブレイキング（緊張のときほぐし）のため、言葉ではなくジェスチャーで、お互いの誕生日を確認して、誕生日順に一つの大きな輪になりました。

続いて、インタビューアクティビティを行いました。これは、自分でペアを作って、英語で質問したり答えたりする活動です。ALTのJ R先生、英語科の山口直美先生、そして私も参加して、英語の会話を楽しみました。小学校6年生の児童もきちんと英語で会話していてとても感心しました。



ちょっといい話

「新成人の孫娘の言葉に感激した」という新聞のコラムの見出しに心を奪われた。この孫娘は、京都の某大学に通っている。彼女は福岡県太宰府市で行われた成人式に参列した。その後、祖父母と両親、孫娘の5人で、筑紫野市の二日市温泉の旅館でお祝い。その孫娘の母親が、娘時代に着た振袖の晴れ着。その振袖の晴れ着を孫娘が着た。それは、うっとりするきれいな姿だった。

そのお祝いの席で、「成人式を迎えることができたのはおじいちゃん、おばあちゃんのおかげです。」「また両親にも深く感謝しています。」と孫娘が話した。そして、やや間をおいて「おばあちゃん、ママを生んでくれてありがとう。ママがいたから、今の私がいるのです。」と明るい声で話した。その言葉に、祖父母はうれしくて涙が止まらなかったそうだ。

最近では、親の虐待で幼い子が亡くなった記事。また、子どもが親を殺した記事も読んだ。その中で、孫娘の言葉に心打たれた。

